

銅 賞

水を大切に

中嶋 結理那

筑後市立 下妻小学校

私は、学校の社会科見学で、矢部川浄化センターに行きました。矢部川浄化センターの愛称は「水きらら」です。

水をきれいにしてくれそうな名前だなと思いました。そこでは、一日に一万二千立方メートルもの下水をきれいにしています。そこでは、三十四人の職員の方々が二十四時間交代しながら働いて下さっています。

水というものは、私達にとって大切な資源です。毎日の生活に欠かせない水です。その水を使えばもちろん汚れますが、下水道によって運ばれた水を浄化センターできれいに流すことで川や海の自然を守ることができています。

下水処理の仕組みは、最初沈殿、反応タンク、最終沈殿池を通ることです。だんだん水をきれいにしていきます。反応タンクには、活性汚泥というびせい物のかたまりがあつてたくさん汚れもいっぱい食べてくれます。またその活性汚泥は汚れをたくさん食べるとしずんで汚泥処理しせつに行き、のうしゅくきやだつしゅくきで水分をへらし汚泥ケーキになります。その後もやされたり、けんちくしぎいや汚泥ひりようになつたりします。わたしは、そのしくみを知って、何でもリサイクルして、世の中をよくしようという考え方がすばらしいと思いました。

川や海を汚さないことはとても大切なことです。私たちは水がない

と一日も生活できません。水のじゅん環に大きな役割を果たしている下水処理の仕組みを守るため私たちにできることを考えてみました。まず一つ目に油を流さないということです。下水に油を流してしまふと水をきれいにしてくれる活性汚泥がしんでしまいます。

二つ目は、水を大切に使うことです。たくさん汚ない水を一回できれいにできるわけではありません。その水が汚ないまま流れると魚がすめなくなってしまう。

このようなことにならないように家族と話し合つて、水をきれいに使うことを気をつけたいです。